共生日本語教室での日本人児童の学び

土田　千緒実

学位取得年月：平成 21 年 3 月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】共生日本語教育、多言語多文化共生、学校教育、協同的な活動

【要旨】
本研究は、多言語多文化共生の学校作りへの資料として提示することを目的とし共生日本語教室での日本人児童 3 名の学びを KJ 法によって分析した。その結果児童の学びは、教師の言動や行動をヒントにしながら、仲間と協力して外国の子どもに伝える工夫をするといった教師と仲間との相互作用を通して得られたことがわかった。この結果から、共生日本語教育と共生を目指す学校作りにおいて、日本人児童が日本語非母語話者とコミュニケーションを達成するための言語的手段の一つとして日本語を学ぶ機会または活動を取り入れる必要性を提案した。その際に、子ども自身が考え協同的に学ぶ活動を導入し、子どもの視点と子どもを取り巻く環境から学びを捉える必要性を示唆した。

（つちだ　ちおみ）

言語少数派高校生の日本及び自己の捉え方はどう変わるか
―文化祭展示への日本人フィードバックに注目した M-GTA による分析―

西岡　あや

学位取得年月：平成 21 年 3 月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】言語少数派高校生、自己、日本人フィードバック、M-GTA、SCQRM

【要旨】
本研究では、言語少数派高校生が『日本人に一番伝えたいこと』をテーマとする文化祭展示で、日本人のフィードバックを契機に日本や自己の捉え方がどう変化するかについて、少数事例を通して検討した。分析には SCQRM をメタ理論に、M-GTA を用いた。その結果、文化祭前において高校生の自己の捉え方は、マスコミと日本社会とを同一視し、マスコミの母国に対する否定的評価に規定された受け身的な自己であったが、文化祭後には自文化・日本社会に対する客観的な視点を獲得し、マスコミ依存から脱却した主体的な自己へと変化した。また、母国文化の媒介者、発信者としての自己の存在意義に気づき、日本社会における肯定的な自己を見出した。

（にしおか　あや）